



まちのサークル VOL.51 手習いクラブ

プロフィール

- ・代表者 大和田 紀夫
- ・活動日 毎月第1・3火曜日
- ・主な活動場所 観月台文化センター
- ・会員数 15人
- ・会費 1,000円/月
- ・連絡先 ☎ 585-3470

手習いクラブは、平成19年に結成された書道のサークルです。元々は、川柳クラブの有志メンバーが「川柳の短冊をもっときれいに書きたい」との思いから、高橋良一先生に教えていただいていた。その有志メンバーが中心となり「手習いクラブ」を立ち上げました。

手習いクラブの活動は、高橋先生に指導いただきながら毎月2回、書の練習をしています。お手本を見ながら、みなさん自分のペースで練習したり、先生に見

てもらい、指導いただいています。普段の練習は、会員みんなで楽しく和気あいあいと行っています。

練習の成果は、町文化祭の作品展で発表しています。会員のみなさんは、書道の作品展のみにとどまらず、絵手紙や川柳など幅広く活動されており、毎年出品する作品が増えてきています。

普段の練習の他にも春にはお花見をしたり、食事会などを行い、会員同士の交流を深めています。また、コミュニティスクールの一環として、国見小学校の一年生に鉛筆の持ち方の指導なども行っています。

墨を磨って筆を持ち、集中して書の練習をしていると、心が落ち着くので活動日を楽しみにしているとみなさんお話しされています。読めないような難しい字の練習は行っていません。一緒に日本の伝統文化に触れて楽しんでみませんか？みなさんの参加をお待ちしています。

県北中学校 (3年生)



須藤 麗茄



渡邊 ゆき



小池 龍成



和泉 美沙

小さな天才たち

安全な「あんぽ柿」出荷に向けて



「復興のあしおと」では、震災からの復旧・復興に向けた町の取り組みを紹介し

国見町の特産品である「あんぽ柿」は、昨年より加工再開モデル地区が町内全域に広がり、生産者による加工再開が進められています。

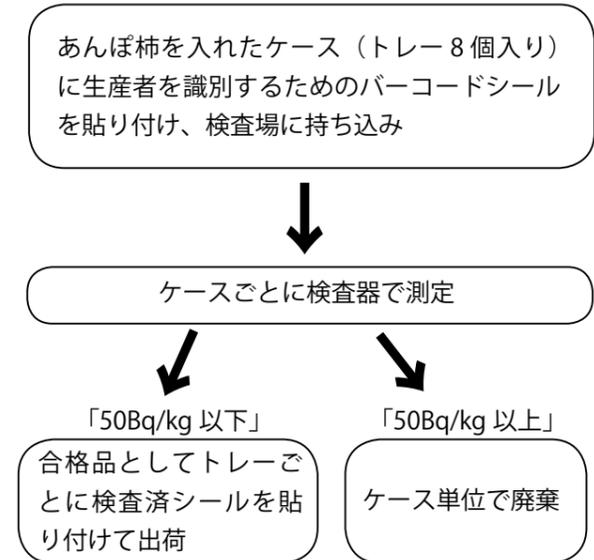
また、加工生産された「あんぽ柿」は全量非破壊検査を経て、基準値以内の安全なものだけが出荷されることとなっています。全量非破壊検査は11月20日より開始され、検査機器を昨年の5台から6台に増やし行っています。

あんぽ柿は原発事故後、2年間におよぶ加工自粛となりましたが、昨年は町全域が「加工再開モデル地区」となり、生産量の拡大が図られ本格的な産地再生への大きなステップとなりました。

今年度はモデル地区内での原料柿の売買及び移動を再開しました。本格的な復活を目指す「あんぽ柿」を是非ご賞味ください。



【あんぽ柿非破壊検査の流れ】



あんぽ柿を生産される方は、安全なあんぽ柿生産・出荷のため、農業生産工程管理（GAP）の取り組みや二次汚染防止のための干場清掃、全量非破壊検査にご協力ください。

【原料柿の移動（売買）ができるのは】

- ①所有する全てのほ場が平成27年度モデル地区内に存在すること。
 - ②平成25年度から平成27年度までに実施された幼果期検査において、所有する全てのほ場が10Bq/kg以下であること。
 - ③取引可能な原料柿の量が200kg（コンテナで約10箱程度）以上であること。
- ※個人贈答であってもあんぽ柿を生産する場合は、農業生産工程管理（GAP）に基づき生産し、必ず全量非破壊検査をしてください。

◆問い合わせ 産業振興課産業振興係 ☎ 585-2986

J A伊達みらい国見宮農センター ☎ 585-2660